

入選

伝染する親切

長野県 永明小学校

6年 行田蒼士

ぼくが一人で廊下を歩いていたとき、ぼくと同じ健康委員会の低学年の子たちが困っていて、ぼくが「どうしたの？」と声をかけたら、「委員会の仕事、どうやってやるのか忘れちゃった。」とその子たちが言いました。

そこでぼくが、「これはね、こうやってやるんだよ。」などと説明していると、同学年の女の子が近くによって来てくれて、その女の子がぼくといっしょに、低学年の子たちにやさしく説明してくれました。

そのあと、いっしょに説明してくれた女の子に、「ありがとう。どうしていっしょに説明してくれたの？」と聞くと、その女の子が「私だって同じ委員会だから説明ぐらいできるし、同じ学年の友達ががんばっているのに、無視できるわけないじゃん。」と言ってくれたのです。

ぼくはその言葉を聞いて、心がすごくジーンとしました。その女の子は、ほかにもだれかが困っていると、すぐによって行って「だいじょうぶ？」「どうしたの？」などと、声をかけてあげるので、そして、その女の子に手伝ってもらった子の顔には、とっても明るい笑顔があるのです。ぼくは、そんな女の子のやさしい行動を見ると、「すごいなあ」「ぼくもああなりたいな」と思います。

なのでぼくは、毎回やさしいその女の子みたいになるために、がんばりました。困っている子がいたら、「だいじょうぶ？」「どうしたの？」など、たくさん声をかけてがんばりました。

そんなことをしていたある日、ぼくのお手本の女の子が、一人でたくさんの荷物を持っていて、困っていたのです。ぼくはその子を見て、「あっ、あのときのお返しをしなきゃ。」と思いました。そんなことを思っている間に、ぼくはその女の子の近くによって行って、「だいじょうぶ？荷物持つよ。」と声をかけていました。

荷物を持って行ったあと、その子は「ありがとう。どうして持ってくれたの？荷物重かったでしょ。」と心配してくれました。ぼくは、

「全然重くないよ。それはね、ぼくが低学年に説明していたあのとき、いっしょに説明してくれて、『同じ学年の友達ที่がんばっているのに、無視できるわけないじゃん』って言ってくれて、とってもすごいと思っていたし、お返ししなきゃと思ったからだよ。」

と話したら、女の子が「あんなのたいしたことじゃないよ。」と言ってくれたのです。ぼくはその言葉を聞き、「やっと思返しができる。」と思いました。

そんなできごとがあった翌日から、ぼくは困っている人がいたら「どうしたの？」など、たくさん声をかけました。すると、あの女の子がぼくに、「そうしくん、とてもやさしくなったね。」と言ってくれたのです。ぼくは、そんな言葉がとてもうれしかったです。